令和6年度 学校経営計画・学校評価

□4月4日提出

□10月3日提出

■3月14日提出

学校番号

25

伊野商業

高等学校

課程

全

高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○学業や部活動に意欲的に取り組み、向上心を持って努力し続ける生徒。 ○ビジネス教育に関心があり、体験学習や各種検定取得等に取り組む意欲がある生徒。 ○地元及び地域の振興や活性化に取り組む意欲のある生徒。 ○「自分の夢」の実現に向かって、主体的にチャレンジしようとする意欲がある生徒。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○社会で必要とされる基礎学力の定着と商業の知識と技術の習得を目指します。 ○実習や体験学習、インターンシップなどを通して、地域や産業界と連携したキャリア教育を実践します。 ○ビジネス教育を通して、地域の活性化に貢献できる能力や起業家マインドの育成を図ります。

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 C 】	学力向上に必要な家庭学習時間を延ばす取組を考えてもらいたい。また、生徒たちにとって分かりやすい授業を行うことが、授業に集中できることに繋がると思われる。引き続き研修会等に参加するなど、教師力の向上に努めてもらいたい。さらに、検定試験合格者を増やすための補習等もお願いしたい。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	地域活性化に向けた取組に対して高い評価を受けた。また、系統的なキャリア教育やインターンシップ、職場見学などの体験学習により、社会性を育む活動ができていますので、今後も継続するとともに効果について検証をお願いしたい。今後も適切な対人関係を築けるような取組をお願いしたい。
【チーム学校】 評価 【 B 】	友人関係や家庭内の問題、その他様々な悩みを持つ生徒が多くいるが、生徒サポート部を中心に全教職員での対応ができています。また、SC・SSWの配置により、より専門的な課題に対応できる環境も整備されている。今後も早期対応を心掛け、生徒にとって安心・安全な学校を続けていけるよう頑張ってもらいたい。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	【現状】 ○基礎学力の未定着 ○勉強の仕方が分からない生徒が多い ○授業外学習時間40時間の生徒 1年次・・・44名(1回目)→75名(2回目) 2年次・・・65名(1回目)→71名(2回目) 【目標】 ○C層以上の生徒の増加 1年次(R5年度1回目 12名)→(R6年度2回目 15名) 2年次(R5年度1回目 15名)→(R6年度2回目 20名) ○授業外学習時間の増加 1回目的人数を維持する ○簿記3級の検定試験合格率・・・60%以上 ○間14「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」の肯定的割合を県平均に近づける	○授業規律の確立 ○少人数教育、TTを取り入れた授業 ○定期的な教科会の実施 ○タブレットの持ち帰り等による活用 ○公開授業、参観授業の実施 ○一定量の課題 ○キャリア教育の充実	C ・C層以上の生徒数(R5入学生) 12名(1年次1回目)→7名(2年次1回目) 【R6入学生:1年次1回目・・・5名】 ・家庭学習時間(平均時間) 1年次・・・29分、2年次・・・13分 ・問14の肯定的回答 3学年平均・・・79.3% [88.7%] ※[]は県平均	・タブレットの有効活用 ・分かる授業に向けた取組 ・公開授業期間の設定 ・保護者との連携 ・検定試験合格者を増やすための補習等の実施	C ・C層以上の生徒数 1年次・・・5人(1回目)→8人(2回目)→3人増 2年次・・・7人(1回目)→8人(2回目)→1人増 ・家庭学習時間(平均時間) 1年次・・・29分(1回目)→20分(2回目)→9分減 2年次・・・13分(1回目)→9分(2回目)→4分減 ・授業外学習(ほとんど学習しない) 162名→203名(3学年全体)→41人増 ・問14の肯定的回答 3学年平均・・・78.3%[87.2%] ※[]は県平均	・タブレットの有効活用 ・教科会の定期的実施 ・検定試験への取組強化 ・ICT活用による授業力向上に向けた取組強化 ・授業外学習時間を延ばすための環境づくり
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	【現状】 ○問21「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行っている。」 1年次・・・18.1%(38.8%)、2年次・・・38.6%(43%) ○問24「相手の気持ちを考えながら、自分の考えや気持ちを分かりやすく相手に伝えることができる」 1年次・・・74.4%(83.2%)、2年次・・・72.3%(82.4%) 【目標】 ○問21、問25において、県平均に近づける	○キャリアガイダンス(1年次生) ○インターンシップ実施(2年次2月、3年次8月) ○キャリア教育に係る講演会の実施 ○生徒が主体となった学校行事の実施	B ・伊野商祭(10/26開催)に向けた意欲的な取組が見られた ・問21の肯定的回答 3学年平均・・・37.1%[47%] ・問25の肯定的回答 3学年平均・・・90.4%[95.9%] ※[]は県平均	・生徒主導の学校行事 ・地域防災に向けた取組 ・キャリア教育の充実	B ・問21の肯定的回答 3学年平均・・・39.9%[57.3%] ・問25の肯定的回答 3学年平均・・・91%[95.9%] ※[]は県平均	・商業教育を通じた人間力の育成 ・キャリア教育の充実 ・生徒が学校行事を企画、運営
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	【現状】 ○問20「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる」の肯定的回答・・・50.5%(3学年平均) 【目標】 ○問19「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる」の肯定的回答60%を超える ○学校運営協議会の開催・・・年間2回 ○DXハイスクール事業として、ドローンのプログラミング研究を活かして地域の防災活動に取組む	○起業家教育の推進 ○地域活性化に向けた取組の充実 ○地域学習の深化 ・産業、文化、歴史等を学び、地域を知る ・地域の大人と関わることで、地域の課題や魅力を発見させる ・探究学習のまとめをプレゼンテーションする	B ・起業家教育においてリーダーシップスキルの上昇が見られた ・問19の肯定的回答 3学年平均・・・52.3%[65.2%] ※[]は県平均 ・ドローンの有効活用について高知大学等との共同研究	・地域振興に向けた取組 ・各コースの特長や強みを生かした取組 ・有事におけるドローン活用	A ・問19の肯定的回答 3学年平均・・・56.2%[65.6%] ※[]は県平均 ・様々な地域活性化に向けた取組の実施 観光列車でおもてなし、枝川公園イルミネーション、高知城ガイド	・起業家教育の充実 ・災害発生時のドローン活用 ・地域活性化への取組の継続
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	【現状】 ○授業ではICT機器を100%活用 ○タブレットを活用した感想、振り返りの定着 【目標】 ○各教科でICT機器を活用した時間の割合・・・30% ○問26「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えながら行動している」の肯定的割合を県平均に近づける	○ICT機器の活用の校内研修 ○教科内での教材の共有化 ○社会で通用するマナーやルールを身に付けさせるための各教科での申し合わせ事項を設定	B ・教科間で連携し、生徒のキャリアマインドの育成に向けた取組を行った(ライフプランニングの指導等) ・問26の肯定的回答 3学年平均・・・93.1%[96.3%] ※[]は県平均	・他教科との打ち合わせ会 ・ICT機器の活用に向けた校内研修 ・統一的な基準による指導 ・基礎学力の定着を重点的に行う	B ・問26の肯定的回答 3学年平均・・・92.4%[96%] ※[]は県平均 ・公開・参観授業期間の設定により他教科の理解、関係づくりが進んだ	・キャリア教育における教科間の連携・調整 ・他教科と連携した授業づくり

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○地元産業や地域社会に貢献できる生徒を育成するため、学校を挙げて取組む。 ○様々な取組を通して、学校の知名度を上げる。	【現状】 ○部活動で全国大会に出場する文化系部活動もあるが、体育系部活動は部員数不足で低迷している ○地域活性化に向けた生徒の取組は高い評価を受けている 【目標】 ○各種検定試験の3種合格者数・・・5名以上 ○商業教育の質を上げることで、知名度を高める ○進路決定率100%を目指し、将来の高知県を担う人材を育成する(県内就職率・・・80%以上) ○教員の指導力向上を図るための研修会への参加	○各種検定試験にチャレンジ ○ホームページ等での積極的な情報発信 ○部活動の活性化 ○生徒主体の学校行事 ○計画的、組織的な進路指導	B ・進路決定率・・・87.5%[9/26現在] ・オープンスクール参加者・・・123名 ・商業技術部が高校生ボランティアアワード2024(東京開催)に参加し、ライオン・ユース賞を受けた	・起業家教育、DXハイスクール事業に係る取組を継続実施 ・ホームページの更新 ・これからの伊野商業を考える学習会を開催	A ・進路決定率・・・94% ・地域活性化に向けた継続的取組 ・商業技術部、軽音楽部が県内外の大会、イベントに出場	・部活動の活性化 ・国公立大学への合格者輩出 ・学校行事の魅力化
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	【現状】 ○教職経験豊かな教員が多く、学校運営上安定をしている ○仕事の偏りや学校全体や教職員間での情報共有が十分ではない 【目標】 ○校内コンプライアンス研修の実施(学期に1回、計3回) ○不祥事防止委員会の実施(学期に1回、計3回)	○チェックリストの効果的活用 ○校外での研修への積極的な参加 ○風通しの良い職場づくり	C ・定期的に不祥事防止に関する啓発活動を行った	・定期的に不祥事に関するメッセージを発信 ・様々な悩みをSC、SSW、他の教職員に相談しやすい環境づくり ・効果的な校内研修の実施	B ・不祥事防止委員会の計画的実施と教職員への周知徹底 ・「不祥事防止のためのチェックリスト」の活用	・学校行事のスリム化による多忙化の解消 ・教職員を対象にしたメンタルヘルス研修
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○授業などの本来の業務に専念できる環境を作り、未来を担う生徒たちの学びを充実させる。	【現状】 ○長時間勤務者 45時間以上・・・52名、80時間以上・・・1名 【目標】 80時間以上の超過勤務者を0名	○長時間勤務者への声かけや指導 ○会議・研修の精選 ○学校行事、業務内容の見直し	C ・超過勤務者(延べ人数):4月～9月 45時間以上・・・27名(昨年度同時期より12名減) 80時間以上・・・1名(昨年度同時期より1名増)	・長時間勤務者への声かけ ・学校行事の精選 ・会議の時間設定	B ・超過勤務者(延べ人数):4月～2月 45時間以上・・・38名(昨年度より14名減) 80時間以上・・・1名(昨年度同様)	・学校行事の精選 ・部活動における複数顧問制 ・業務量のバランスを考慮した組織づくり